

としょかんにすむ  
ちいさなようせい

東浦童話の会  
近藤 綾

作絵

よむらびは

としょかんにある

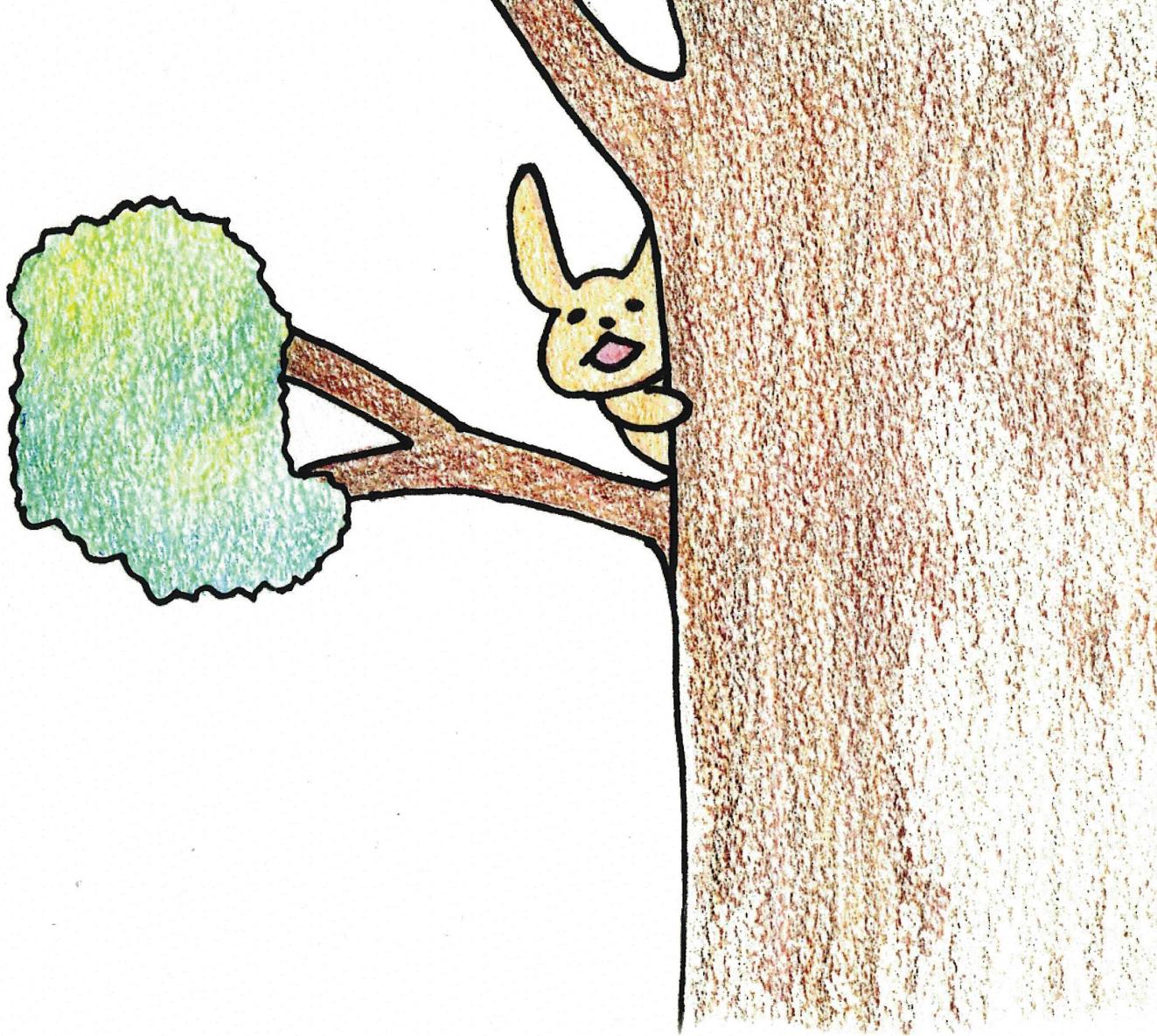
大きな木に

すんでいる

本のようせい。

ようせいだから、

にんげんにはみえない。



あるひ、

「わくわくやんのげんきな

じうえがわいじうえい、

よむりびはきのかげから

かおをだした。

「ママ、 いの木よんぢ」  
ほん

「わがやんば

ママといつまく、

じつまといよかんこ

きてくれる。

おこじ前から、

おひいこのまへやとおひいこ

こうしょてへゆるよがになつた。



「ユウちゃん、もつかえりよ

「だめ、かえらない」

「ダイちゃんがおなかすいたつて。

この本ばかりでいいて、おりでむのー

「うや。ほんのむのー」

「ウサちゃんが

おおきないえを

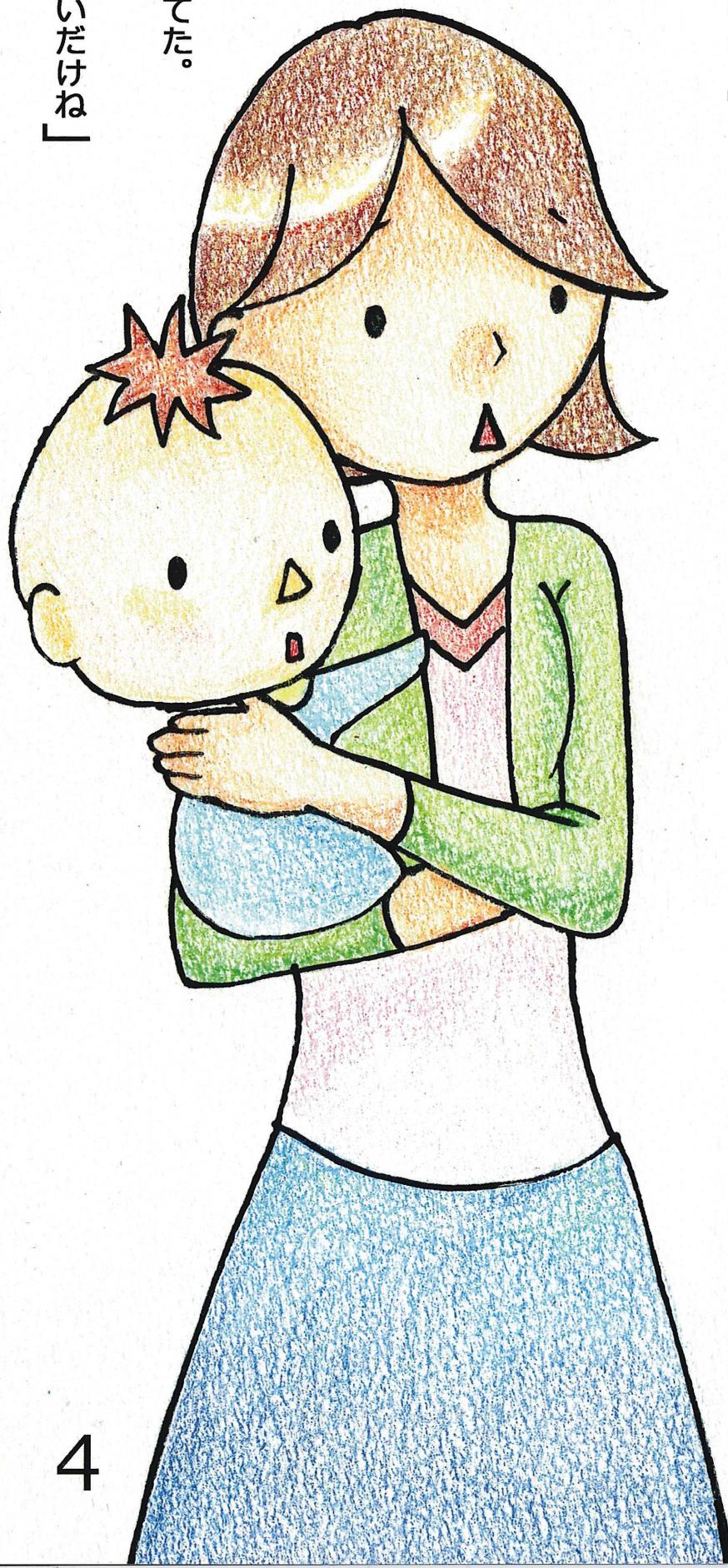
だしたので、

ママはジーっと

くちびるこ

ひとをじゆびをあてた。

「じゃあ、いつかいだけね」





ママが本をよみはじめるとい  
こんどはダイちゃんが  
ぐずりだした。  
てあし  
手足をばたばたさせて  
いまにもなきだしそうだ。



よむらびは、おもわず木からとびおりた。

ママのかたにのつて、ダイちゃんのかおをみつめた。

ダイちゃんはびっくりしたように

よむらびをみつめた。

そうなのです。

よむらびは、まだおはなしの

できない赤ちゃんには見えるらしい。

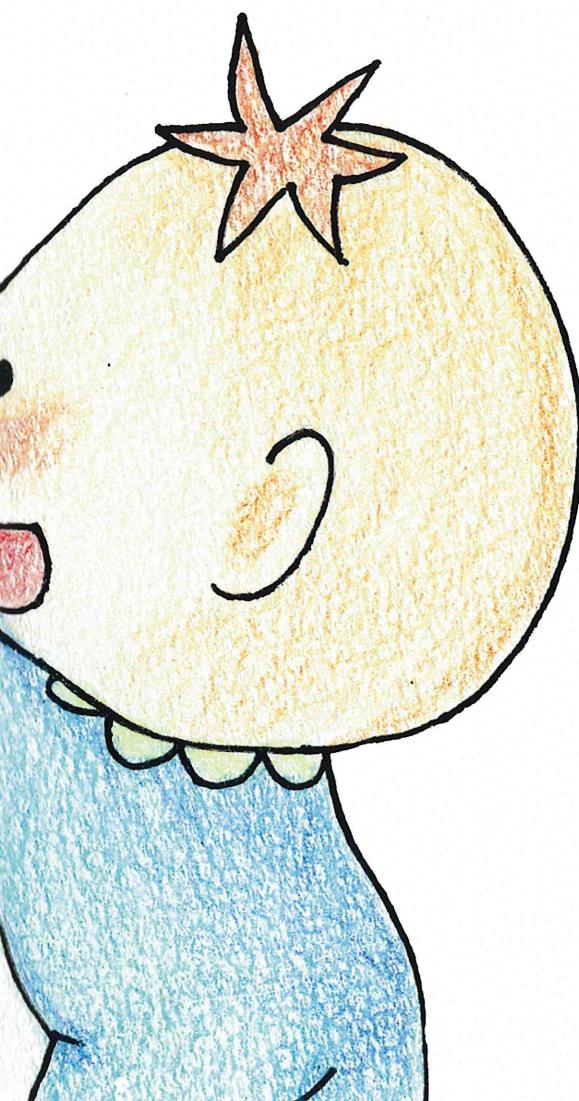
よむうひは、ダイちゃんに手をふつた。

ママのかたをすべりおちて、

ダイちゃんのすぐそばまでいったかとおもうとい

いじどりは「わちゃんのあたまに」とびのつた。

「ダイちゃん、かみのけひつぱらないで」



ユウちゃんは

くちをとがらせたけど、

ダイちゃんがごきげんなので、

また本ほんにむちゅうになつた。

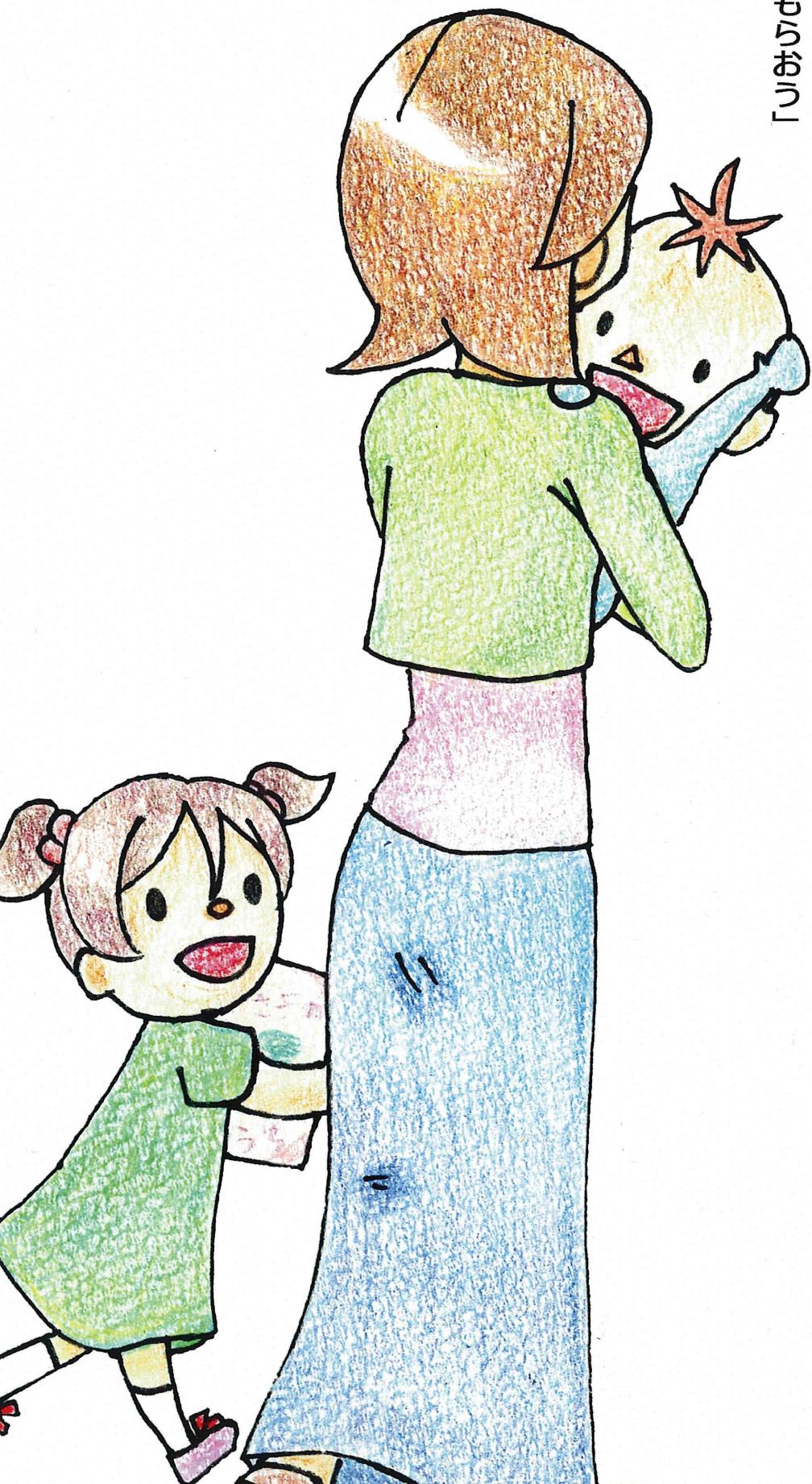
よみおわって、本をぱたりとどじると、

ユウちゃんはイスからたちあがつた。

「かえろうママ。この本かるる」

「そつか。じゃあ、カウンターで

ピッしてしもりおう」



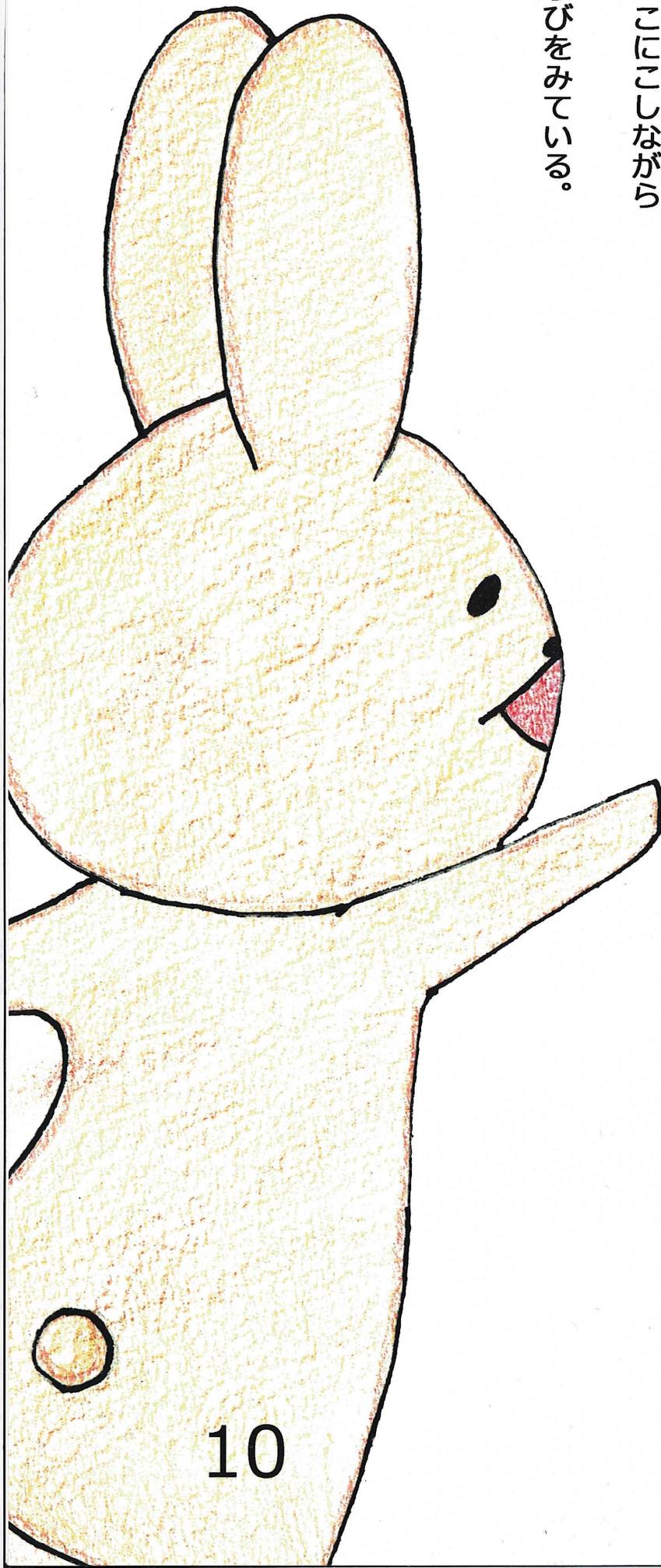
ユウちゃんは本をかかえて

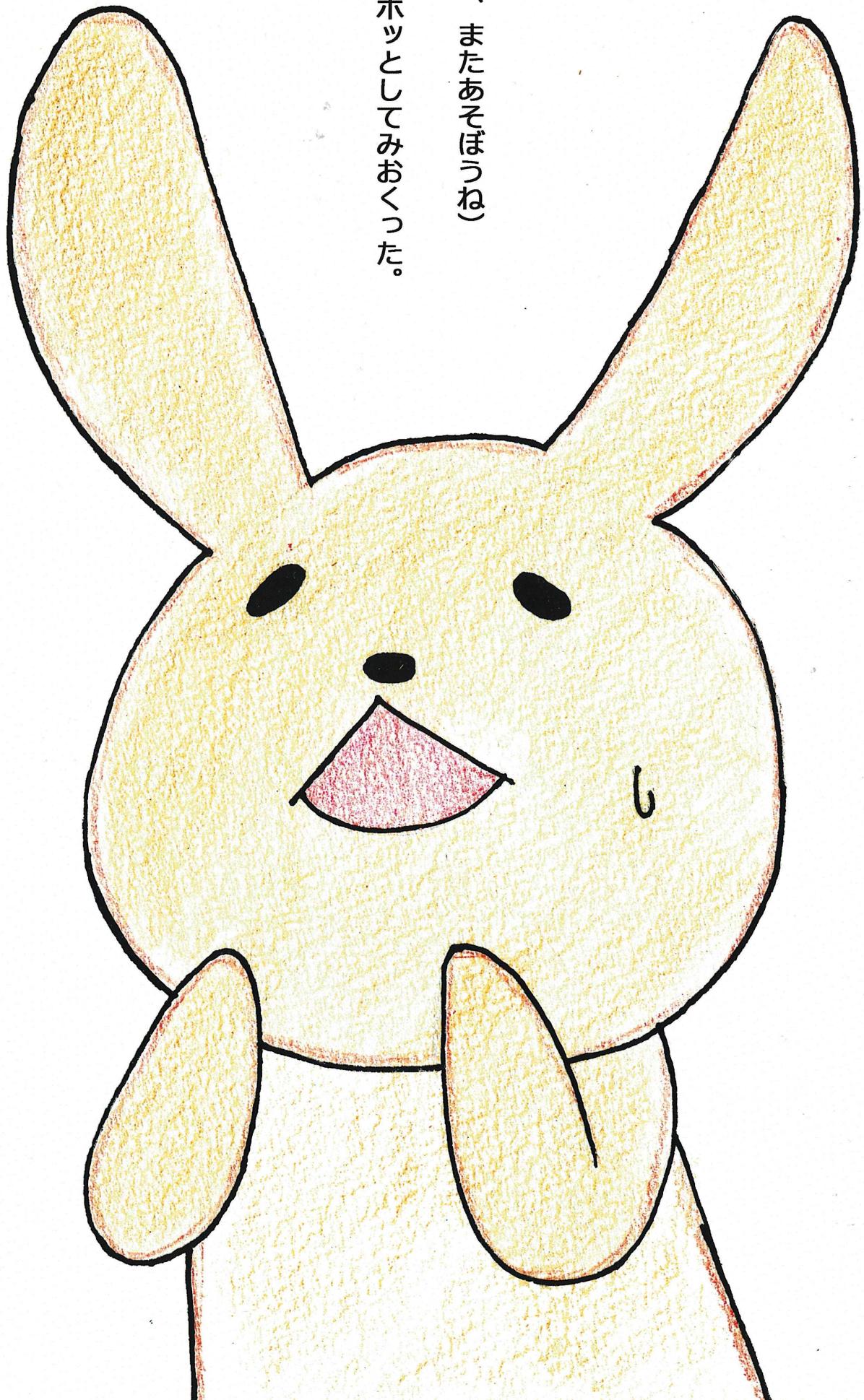
カウンターにはしつていいく。

ママにだかれたダイちゃんは、

まだにじこしながら

よむりびをみている。





(バイバイ、またあそぼうね)

よむりびはホッとしてみおくった。

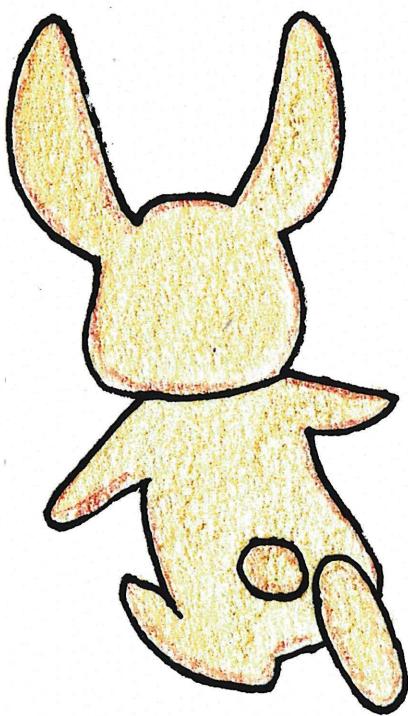
(いけない、はやくもどりないと

パパにしかられる)

よむらびは、パパやママから、木きから  
おりてはいけないといわれている。

でも、こうやって、

ないしょでおりちゃう  
ときがある。

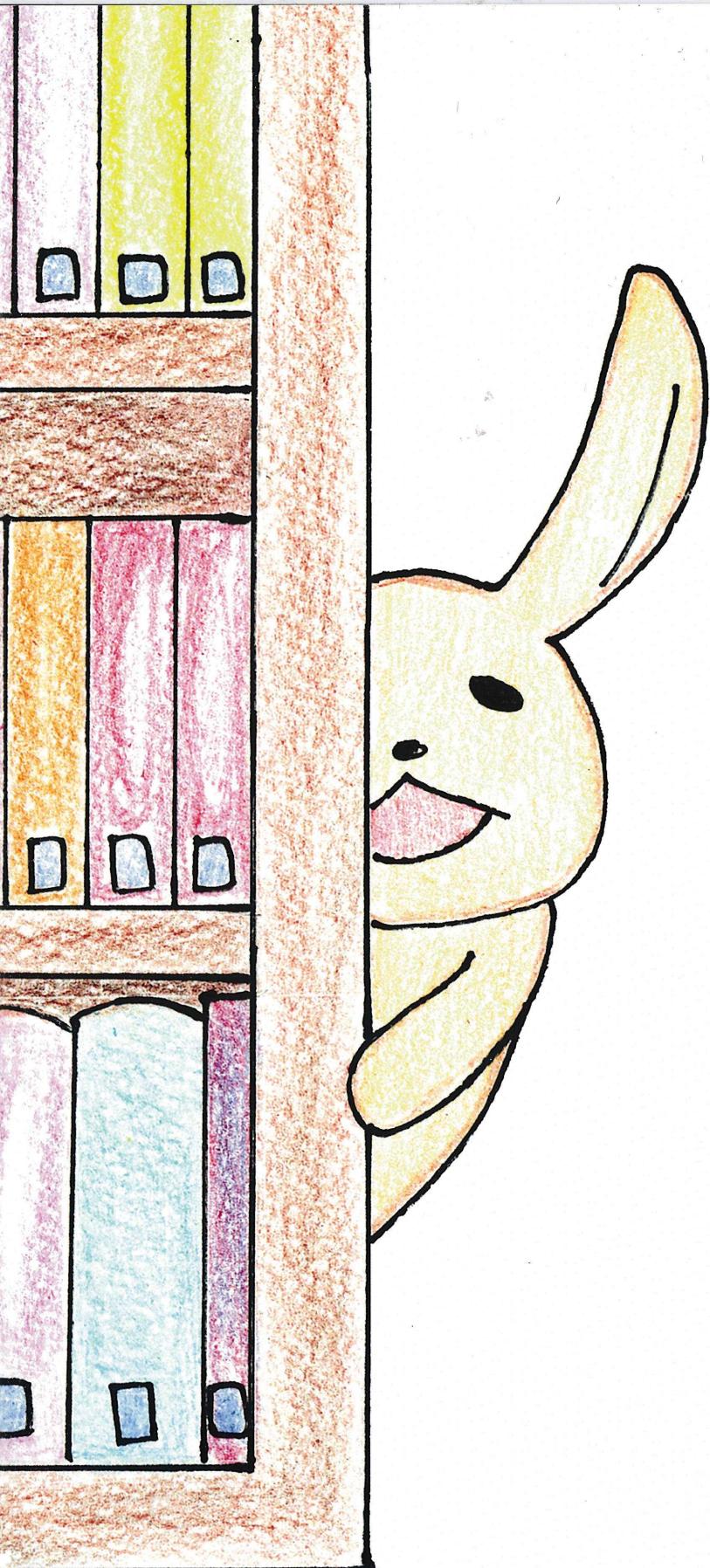


もしかして、いま、

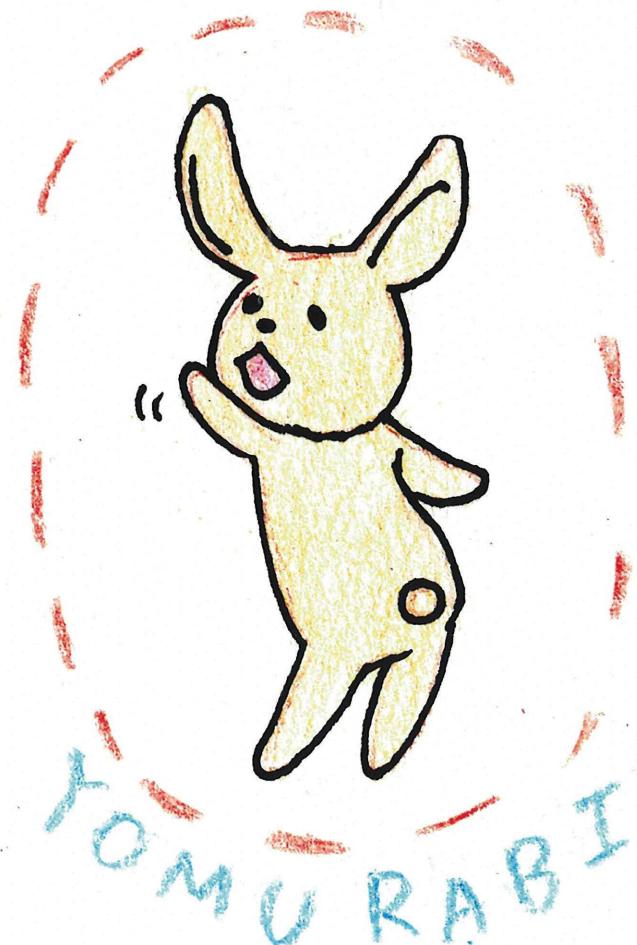
あなたのうしろにあるやのタナのうえに、

よむりびがいたかもね。

おしまい。



2016年6月24日 発行  
本文／東浦童話の会 絵／近藤綾  
発行／東浦町中央図書館  
〒470-2102  
知多郡東浦町大字緒川字平成81番地  
TEL 0562-84-2800



よむらびは、東浦町中央図書館に住んでいる本の妖精です。